

アジア研究教育拠点事業セミナー 4 実施報告書

平成 23 年 2 月 17 日

独立行政法人日本学術振興会 殿

京都大学東南アジア研究所
速水洋子

セミナー実施報告書を次の通り作成しましたので提出します。

セ ミ ナ ー 名		日本学術振興会アジア研究教育拠点事業「脱国家的視点から観た東南アジア像」
開 催 期 間		平成 23 年 1 月 18 日 ～ 平成 23 年 1 月 19 日 (2 日間)
開 催 地		日本、京都、京都大学稲盛財団記念館
日本側責任者	氏 名	石川 登
	所属機関・職名	京都大学東南アジア研究所・准教授
開 催 責 任 者 (※日本以外の場合)	氏 名 (英 文)	
	所属機関・職名 (英 文)	
セミナーの概要及び成果		
【概要】		
<p>“Radically Envisioning a Different Southeast Asia: From a Non-State Perspective”と題された本国際シンポジウムでは、国家や文明を基軸とせずに東南アジア社会を考察することを第一の目的として、従来の地域研究で提出されてきた港市に形成された政治的センターによって記録された文書に依拠する歴史学研究、ならびに平地の文明を中心に構築されてきた民族誌的記述に対する根底からの疑義を提出した。参加者は、それぞれが自身の史資料研究事例の発表を行いながら、東南アジア地域研究における国家-社会関係のパラダイム転換にむけた理論的議論を行った。</p>		
【成果】		
<p>東南アジア山地部社会に関する世界的な研究者であるイェール大学のジェームス・スコット氏が基調演説を行うとともに、参加者の発表論文 13 編を事前に読み、コメントを用意してセミナーに臨んだ。発表者は、スコット氏が提出した Zomia 概念のそれぞれの論考への適応性を吟味しつつ、事例研究の提示を行い、結果として、きわめて質の高い議論の応酬が行われた。参加者のフロアからの活発な発言もあり、東南アジア社会の国家中心史観ならびに文明中心的な民族誌生産の再考の必要性が参加者の基本的な認識として受け入れられたことは、本セミナーの所期の目的であり、東南アジア研究のパラダイム転換にむけた実証的な理論構築の大きな一歩を踏み出すことができた。成果としては、京都大学東南アジア研究所発行の『東南アジア研究』において英文特集号の編集作業が現在進んでいる。</p>		

○参加者

① 「参加研究者リスト」に記入されている参加者数 16人

(「参加研究者リスト」の研究者番号を記入してください。経費負担の別により区別すること。

<A: セミナー経費より負担。B: 共同研究・研究者交流経費より負担。C: 本事業経費からは負担しない。> (形式任意)

- 1-11 京都大学 石川登 C
- 1-12 京都大学 清水展 C
- 1-16 京都大学 速水洋子 C
- 1-43 アリゾナ州立大学 Hjorleifur Jonsson A
- 1-66 イェール大学 James Scott A
- 1-67 シンガポール国立大学 今村真央 A
- 1-69 マレーシア大学 Abdul Rashid Abdullah A
- 2-14 Chiangmai University Buadaeng, Kwanchewan A
- 2-18 Thammasat University Yukti Mukdawijitra C
- 2-32 Chiang Mai University Ronald Renard A
- 3-3 University of Indonesia Lumenta, Dave A
- 3-11 University Malaysia Sarawak Chew, Daniel A
- 3-12 University Malaysia Sarawak Langub, Jayl C
- 4-1 Academia Sinica Ohta, Atsushi A
- 4-8 Academia Sinica Chang, Wen-Chin A
- 4-24 Academia Sinica Shu-Yuan Yang A

② 「参加者研究者リスト」に記入されていない一般参加者数 78人
(リスト不要)

○日程及び課題 (セミナー関連資料があれば添付すること)

別紙のとおり